

生体モデル膜国際セミナーを共催しました
—化学の目から脂質二重膜と生体膜の学理と新機能を探る—
(2017年10月9日-10日)

2017年10月9日-10日、大阪大学豊中キャンパス 南部陽一郎ホールにて、「生体モデル膜国際セミナー —化学の目から脂質二重膜と生体膜の学理と新機能を探る—」が開催されました。

(主催：大阪大学生体モデル膜研究会、共催：サントリー生命科学財団、科研費新学術領域「化学コミュニケーション」)

当財団では、「代謝・膜・シグナリング」を研究のキーワードとしています。生体膜研究に携わる生物有機化学・生物物理分野の最先端の研究者と財団とのネットワークを築くために、本セミナーを大阪大学と共催しました。生体膜は全ての生物の構成成分ですが、その機能の解明研究は、遺伝子やタンパク質の研究に比べて遅れています。それは、遺伝子やタンパク質が分子生物学的な操作により比較的容易に改変できるのに対して、膜脂質は遺伝子の直接産物でないために、分子生物学的な操作では研究にあった形に修飾をすることが難しいからです。

本セミナーでは、この問題に打ち勝つべく、化学的に脂質誘導体を合成したり、最先端機器を使って生体膜の性質を調べたりした研究が報告されました。また、人工的な化合物を埋め込むことで、新しい機能を持つ膜を創製する研究もありました。

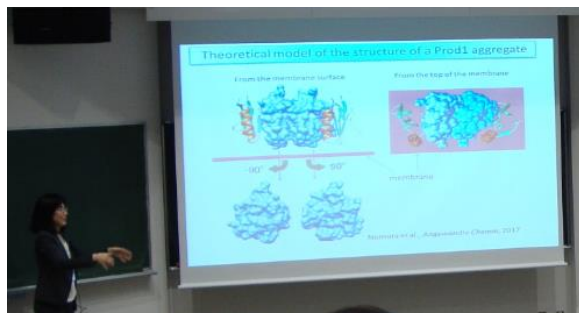
**International Seminar on Biophysics
and Chemical Biology of Biomembrane
and Lipid Bilayers**



大阪大 村田道雄先生の挨拶 E. London 教授 (Stony Brook Univ.) の基調講演

財団からは、野村研究員が招待講演として「イモリの肢再生に関わるタンパク質が生体膜上で集合して、膜同士の接着を促す」という知見を発表しました。また、藤川研究員・森研究員が各々ポスター発表をしました。海外からの参加者も交えて活発な討論が行われました。

脂質分子は1分子では機能が発揮できませんが、集まって膜になると生命にとって重要な役割を發揮することができます。発表者からは「脂質こそ『One for All, All for One』の存在である！」との言葉が聞かれました。



野村研究員の招待講演
The Role of Membrane Anchor in Prod1
for the Newt Limb Regeneration



ポスター発表